

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年6月11日記入

基本目標	I ▼ 学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	12120
政策名 (章)	第2章 生涯にわたる健康づくりを進めます	評価担当課	保健所 ▼
基本施策名 (節名)	第1節 地域保健対策の充実		生活衛生課
施策名	快適で安全な生活環境の確保	課長名	飯田生馬

1 施策の概要・目的

食品や環境が健康に与える影響など、生活環境問題に対する市民の意識が高まる中で、食品等の安全性の確保や日常生活に密着した環境衛生施設の衛生水準の維持、向上に向けた対応が求められていることから、その実現に向けた事務事業に取り組んでいる。

2 施策の現状

- 食品衛生に対する啓発を進め、営業者の自主管理の促進、監視指導を進めている。
- 理・美容所等の環境衛生施設の監視指導を行うとともに、衛生害虫等の駆除に関する指導などを図っている。
- 衛生検査機関の整備、試験検査機能、調査研究機能の充実を図っている。
- 動物に対する愛護精神や適正な飼養の普及啓発を図っている。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

297,405 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

483 円/人……人口は、**61.6** 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 **62** 番目です。

(4) 施策に要している人員

27.57 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	食品衛生関係講習会参加者数の目標に対する割合 講習会参加者数/目標とする参加者数(7,000人)×100	食品衛生に対する市民や営業者の意識の向上にむけた取組の成果を表す	現状	82.9 % 単位	0 50 100	目標年度
			目標	100 % 単位	83%	18
指標2	環境衛生関係営業施設監視指導率 監視指導を行った施設数/営業施設数×100	環境衛生施設の衛生水準の維持、向上に向けた取組の成果を表す	現状	32.9 % 単位	0 50 100	目標年度
			目標	33.3 % 単位	99%	15
指標3	衛生検査実施率 検査対応可能業務数/検査目標業務数×100	健康危機管理に対応できる分析体制の整備状況を表す	現状	73.7 % 単位	0 50 100	目標年度
			目標	100 % 単位	74%	19

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

市民の食品に対する安全性の確保や、生活環境が及ぼす影響等に対する関心、ニーズはますます高まっており、生涯にわたる健康づくりを進める上で、本施策の必要性もさらに増している。また、本施策は、国や県に実施を求めるのではなく、保健所を設置する市として、市が行わなければならない施策である。

6 有効性…期待される効果があがっているか

生涯にわたる健康づくりを進める上で、本施策の実施は欠かせないところであり、市保健所を設置して以来着実に成果を上げてきている。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

本施策の事業の構成は現在でもシンプルな構成となっており、事業の構成を組替えるなどの方法により、同じ投資額でさらに大きな効果をあげるのは困難である。

営業施設等に対する監視指導のあり方については、より効果的な方法等について、検討する必要がある。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

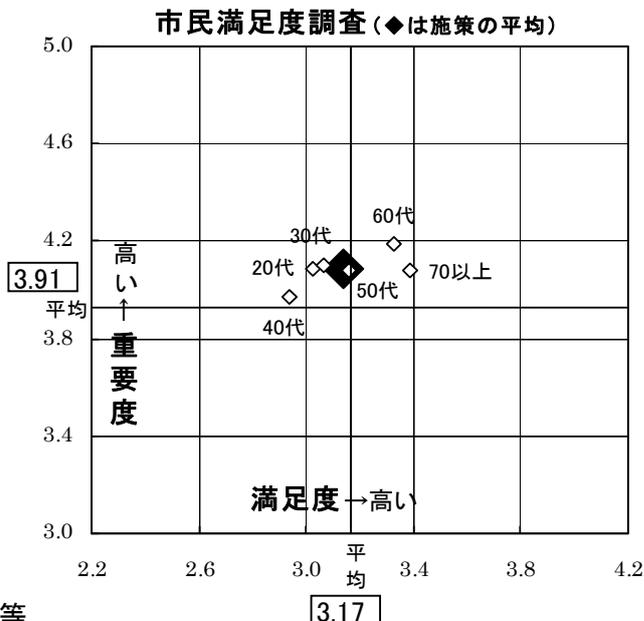
◆この施策の満足度は、3.142で、調査した51施策の中で29番目です。

◆この施策の重要度は、4.085で、調査した51施策の中で18番目です。

◆この施策の改善要望度は、0.667で、調査した51施策の中で18番目です。

◇年齢別にみると、満足度は60歳代以上で高く、40歳代で最も低くなっています。重要度も40歳代で最も低くなっています。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)

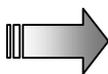


9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

- 1 限られた予算、人員体制の中で、さらに効果的に施設の監視指導を行う方法について検討を進める必要がある。
- 2 食品や生活環境をめぐるっては、次々に新たな問題が発生することから、それらに即応できる体制を考慮しながら、現状の施策を進めていく必要がある。
- 3 健康危機管理に対応する分析体制の整備を推進するためには、現状の施設では限界があり、環境部門との合築による機能強化の促進が必要不可欠である。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充する
<input type="checkbox"/> 現状維持する
<input type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

生涯にわたる健康づくりを進める上で、本施策は必要不可欠であり、食品や生活環境をめぐる状況は常に変化していることから、それらに対応するためには現状どおりの施策を進めるだけでは不十分である。今後対応する必要があるであろう様々な問題に対処するためには、監視指導、検査体制の強化をはじめ、本施策をさらに拡充する必要がある。

11 2次評価

説明
<input checked="" type="checkbox"/> A
<input type="checkbox"/> B
<input type="checkbox"/> C

食品の安全に関する市民の関心が高いことから、国、県等との役割分担のもと、監視指導、検査体制の強化など、更なる取組みを進めること。

12 外部意見

説明
安心・安全な生活環境づくりが求められているため、適正な事業を積極的に展開すべきである。

